

弘法の竹杖
 山崎まがのの杖に竹の杖と
 ついでにうしろつた、その杖を
 ひいてみると根がまがの杖に
 とく

天照大神皇
 全長五尺七寸
 文化五年二月廿日之立

寛文四年四月十四日
 寛文四年五月廿日
 天明六年七月十日
 天明六年七月十日
 天明六年七月十日

上野観音堂
 本尊釈迦牟尼坐像
 大徳山天福寺
 同の寺相より
 寛文三年八月
 天明三年卯春六日
 天明三年八月

上野
 中切
 美濃

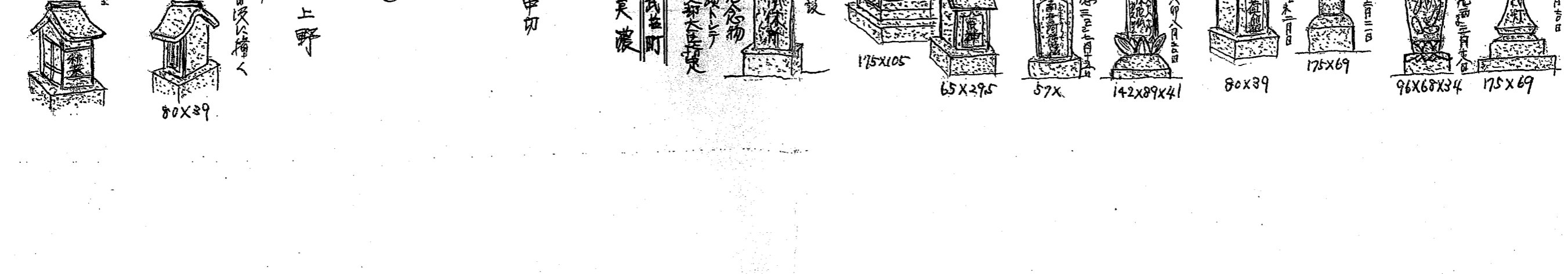
田中神社 祭神田中主事 天保四年(田中主事本村所)
 竹折の故人物 丸屋清以皇校丹原あり(下街)

明徳天皇竹折山休所
 九時遠藤治郎半才の山小憩仰養基料
 二〇冊

観音堂(美濃) 28x40
 本尊土面観音(大田坊板寺の像)
 寛文三年此二月是高野即西園二大寺所
 寛文三年此二月是高野即西園二大寺所

上野道と下野道の争い
 1. 寛永の争い 商人街下野道築止の争い
 2. 慶安の争い 下野道通行禁止の争い
 3. 元禄の争い 下野道通行禁止の争い
 4. 享保の争い 下野道通行禁止の争い

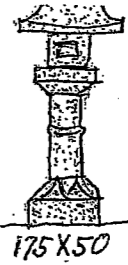
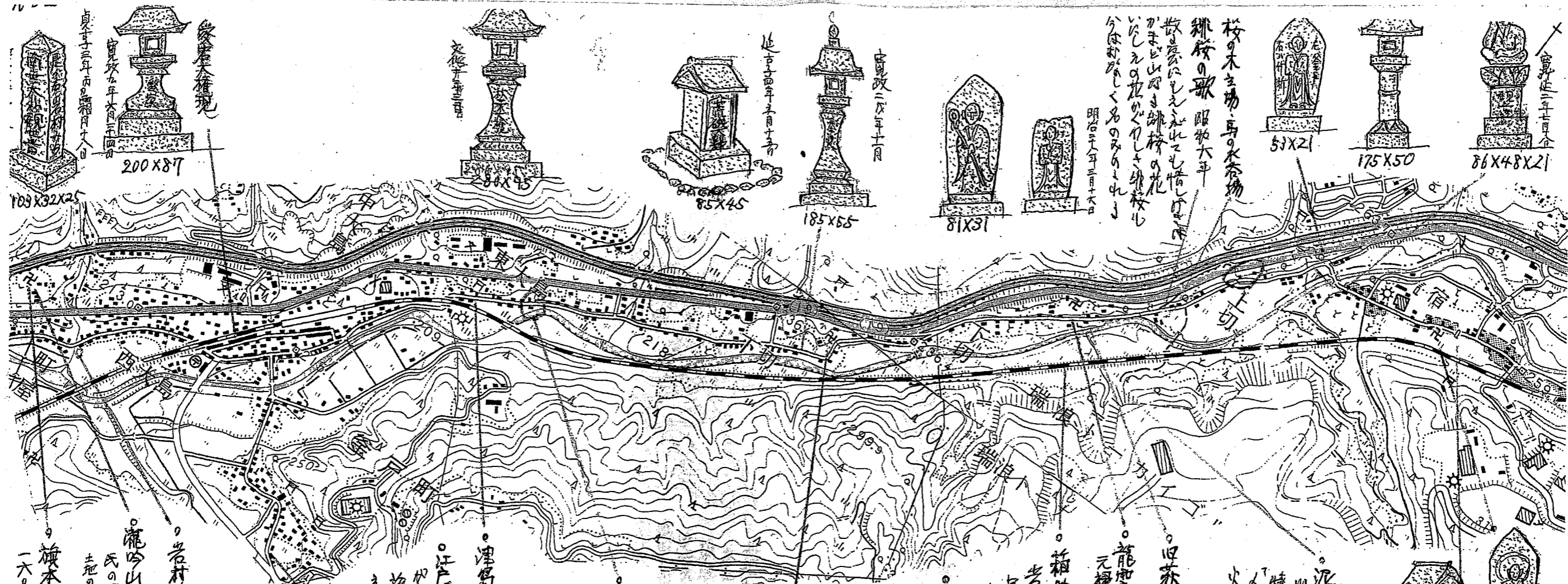
明徳天皇竹折山休所
 明徳三年六月五日
 急遽下野道に変更
 寛文三年六月五日
 急遽下野道に変更
 寛文三年六月五日



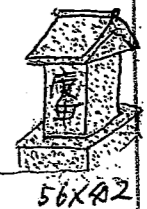
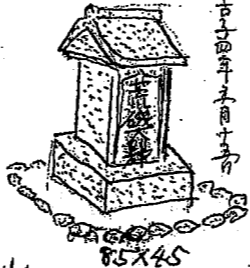
上野
 中切
 美濃

武井町
 美濃

寛文三年八月
 天明三年卯春六日
 天明三年八月
 天明三年八月
 天明三年八月
 天明三年八月
 天明三年八月
 天明三年八月
 天明三年八月



枝の木ま場、馬の水ま場
 継枝の歌 昭和六年
 故郷の山を眺めしは惜しむ心
 かまじし山も継枝の花
 いにしへの花をのりしは継枝
 分は静かにしるのみの心
 明治二十五年三月十日



根入宿 現金屋
 根入宿の看板あり
 箱階殿、モロ田のそと、根入宿あり
 30法堂(元観音堂)
 本山大師坐像(厨子入り20cm)
 各政の頃の運まかり
 境内に三十三所観音 見沙内 庚申 盧公康
 文化十二年五月十日
 聖戸町



泥地蔵(年代?) 馬鏡観音 明治二十三年
 明治二十三年に、根入宿に大火ありて、泥地蔵の像は
 焼けて跡に記し、しかし通行人の事故が多く、重宝は
 人通り多い所に祀り、供奉せよとせしむ。いかに移し
 火傷した人の泥を塗り、治癒祈願した。いかに泥地蔵

旧茶、島分枝

龍馬山白珠寺 本尊聖観音菩薩 隆徳寺の妙法蓮華經
 元禄五年大猷寺四世大空 中興寺外内再建

箱階焼真景繪詞 江戸時代多政寺南杉前橋の
 老村橋への依頼により、三田官衛安(老村橋)
 足立老次(老村橋)の一行が、箱階へ帰國
 した。この繪詞を奉納し、明治十二年三月十九日
 寺通足立老次の
 寺通足立老次

救之島境 足立老次兩谷箱階焼の陶祖
 横安内儀を、箱階焼の陶祖と名づけた。これに
 沿って、老次は、箱階焼、上谷技術が加藤
 五郎三(代西澤田村)の美濃焼陶器の品、
 向うに貢納し、五郎三の名を高くし、
 老次の名を高くし、

出雲大社、神祇教
 五年前の創建、寺の年代の座像、藤原公三十九
 松本ツヨシの大蛇(鴨居)

荒磯大明神
 延喜二年五月五日

津町神社 天橋宮文化堂 民神文化八年

江戸時代の老木 阿豆は、大島村の安藤中村村の保善
 如文の、寛文二年の老木、大島村の保善、保善
 如文の、寛文二年の老木、大島村の保善、保善
 如文の、寛文二年の老木、大島村の保善、保善
 如文の、寛文二年の老木、大島村の保善、保善

唐土街道の南登 明治二十五年、中央線敷設計画
 老村街道(腰塚)の、佐々木、野中、林、大島
 明治二十五年、佐々木、野中、林、大島
 佐々木、野中、林、大島

若村道邊標 是より右若村、及び、左、三ノ瀬、

龍吟山天賦寺 元和年間、小庵、延享八年、創建、兵場
 氏の菩提寺、馬場、関保、書画、ハナノ木、門、天保六年、
 主祀の大工、板橋、助、が、徳西、山、の、ハナノ木、で、
 妙法蓮華經、三層、
 駕籠(指定)

榎本馬場民の墓 園景、戦後、土岐、意那、一、河、見、初、
 一六、石、馬場、民、の、墓、三、代、より、代、

宿

下切

東大島

西大島

所尾